

水産の窓

令和7年冬春季(3~5月)の沿岸漁海況予報

1. 令和7年冬春季(3~5月)の海況予測

(1) 海況の概要(3月上旬)

3月2日のNOAA人工衛星海面水温画像を図1に示しました。黒潮は波崎の東50マイルを東北東に流去しています。黒潮の北偏傾向は弱まっているものの、その北限は144° 40' E付近で37° N付近まで達し、北偏は継続しています。

茨城県沿岸域は、13~17℃台(黒潮が流れる沖合域は18~19℃台)で、暖水の影響がみられます。

また、現在、親潮第一分枝は道東沖の暖水渦により南下がブロックされており、茨城県沿岸域への親潮の影響はほとんどみられない状況です。

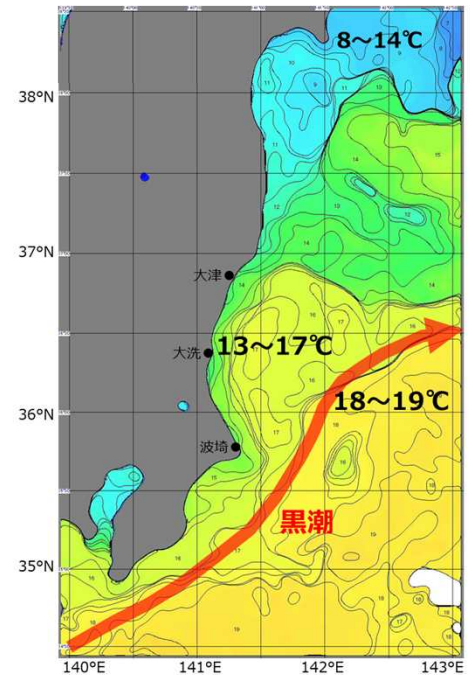


図1 NOAA人工衛星画像
(令和7年3月2日)

(2) 海況の予測(3~5月)

1月と2月の海況を、図2のように

暖水パターン: 黒潮からの暖水の影響がある

中間パターン: 暖水・冷水パターンの中間

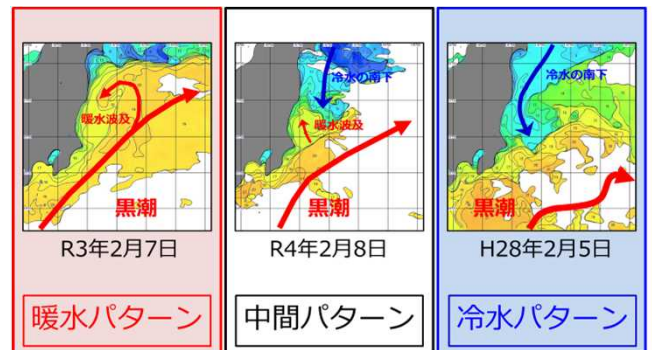
冷水パターン: 親潮からの冷水の影響がある

に分類すると、

1月、2月ともに「**暖水パターン**」となりました。

図2 各海況パターンの模式図

近年の動向をみると、1月、2月の海況パターンが暖水パターンであった年は、3月以降も暖水パターンとなる傾向があります。そのため、今年の3月以降も、暖水パターンが続く可能性が高いと考えられます。



<海況予測>

○黒潮の北偏が継続しており、現在、本県沿岸域では**黒潮からの暖水の影響がみられる。**

○親潮の勢力は弱く、親潮第一分枝は北偏傾向で、本県への親潮の影響はほとんどみられない。

○過去の傾向から、3月以降も「**暖水パターン**」が続く可能性が高い。

以上より、茨城県沿岸域の水温は引き続き「**高め傾向**」で推移すると考えられます。

2. 令和7年冬春季の船びき網漁況予測

(1) シラス

冬春季のシラス漁は変動が激しく(図3)、予測は難しいのですが、以下の観点から予測を行いました。

- ・黒潮の北偏傾向が弱まり、仙台湾付近まで水温が低下しているが、本県沿岸域の水温は、引き続き「高め傾向」で推移する見込み(前述)となっており、シラスの漁場形成には好適環境。
- ・平成26年以降、春シラスは11年連続1千トンを超える漁獲量(図4)。
- ・2月の調査でカタクチイワシ成魚は未熟な状態だが、カタクチイワシ卵が確認されている。

【予測】今後、卵・仔稚魚の供給が順調なら、シラス漁は期待できる。

ただし、昨年までより低水温のため、盛漁期が遅延する可能性がある。

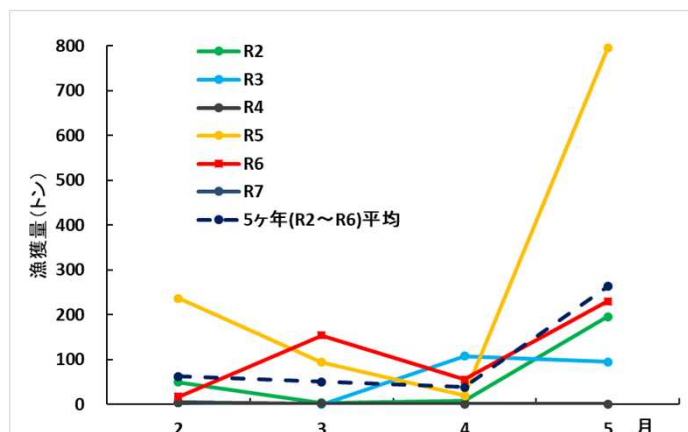


図3 過去5ヶ年の冬春季シラス漁獲量月別推移

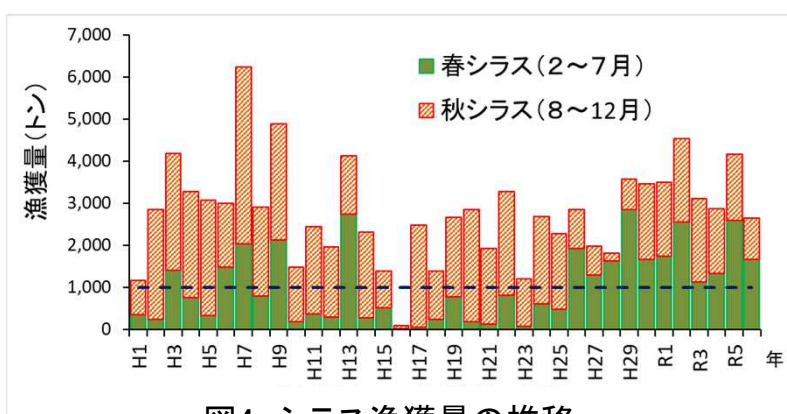


図4 シラス漁獲量の推移

(2) イカナゴ

本県で漁獲されるイカナゴは、仙台湾からの来遊群が主体と考えられている。宮城県 of イカナゴは令和元年以降、ほとんど漁獲がなく、発生量は極めて低水準で、令和7年漁期前調査でも資源回復の兆しが見えない(図5)。

【予測】本県では漁場形成しない

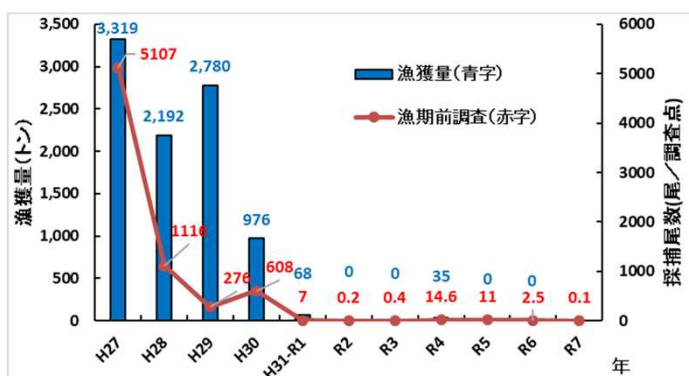


図5 宮城県のイカナゴ漁期前調査結果と漁獲量の推移

(3) オキアミ

9℃の海面水温は3月上旬に仙台湾付近まで留まっており、本県への冷水の南下は期待できない(図6)。

【予測】本県での漁場形成は難しい

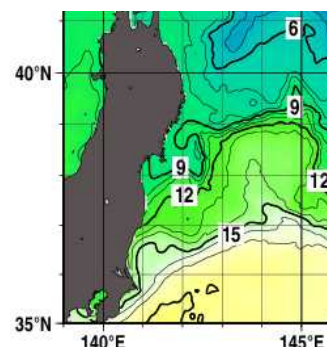


図6 R7年3月10日の海面水温図(気象庁海洋の健康診断表より)

黒潮北偏傾向が弱まっているので、海況変化等に注視し、変化があれば、あらためて情報発信します。

(回遊性資源部 茅根 正洋)

【次回予告】 R7.3.28 発行の「水産の窓」は「生態と資源」公開ほかを予定しています。